

山梨大学長 島田眞路さん

## 「99%の日本人がわかっていない国債の真実」

高橋洋一著



「好きな作家の名前を見ただけで買ってしまおう。時間関係なく、読みだすと止まらない」と笑う島田さん



山梨大学長の島田眞路さん(67)は、タイトルよめも著者に引かれ本を選ぶという。京都府

# 独自の視点に立つ理論

出身。洛星中高(京都)時代は野球部に所属。部活と勉強に追われ「正直、本は教えるほどしか読んでいなかった。夏目漱石や森鷗外くらいで振返る。」  
東大医学部へ進学。大学時代、読書量が少なく教養不足に気づいた。ドストエフスキーやサルトルなど、手当たり次第に読むようになり、本が好きになったという。ただ、ロシアやフランス文学は性に合わず、日本文学に

触れ、吉田健一のエッセーに共鳴したという。  
アメリカ留学時代、研究に励む一方で、同国のさまざまなシステムを見聞したことで「日本はこのままでいいのか。改革が必要なのは」と考えるようになったという。  
そこで手に取ったのが大前研一で、道州制を提唱し日本政府の解体論を説いた1989年出版の「平成維新には、特に感

激した。当時、大前氏の考えに影響を受けた人は多かったと思う。一時、非常に傾倒した」という。  
2009年から15年まで山梨

大医学部付属病院院長を務め、同年4月から同大の学長に就任。島田さんは「ここ10年は職務が  
変わったこともあり、読書の傾向が大きく変わってきている」と話し、「科学研究力が如実に低下している今、国立大が活性化していかなければ日本の未来はない。教育が一番大事」とした上で、財務省出身の高橋洋一の著書「99%の日本人がわかっていない国債の真実」を挙げる。「日本の1000兆円以上あるとき、政府や財務省とは全く違う角度から見ることが出来る。自分ごとにおいて、何を大事にするのか自身の理論を補強してくれた」という。同書を何冊も購入し、学長仲間にも配るほどだ。  
島田さんにとって本は「いろいろな考え方を知ることが出来る、なくてはならないもの。人間は万能ではないから自分の考えをまとめていく上で、最も影響を与えてくれる」と話した。

### 島田さんのおすすめ



「財務省と大新聞が隠す本当は世界一の日本経済」上巻 司著(講談社)  
◇消費増税や金融緩和の報道の仕方から「官報複合体」を問う。「独自の視点から今の日本を元気にする方法を説いている一冊」

「財務省と大新聞が隠す本当は世界一の日本経済」上巻 司著(講談社)